



体験実習とは

- 校内で身につけた力を生かし、実際の現場で発揮するとともに、社会での課題を見つけ、次の目標に結びつけることができるようにします。
- 生徒2～3名に対して、教員1名が引率するが、実習に関しては実習先の方と生徒とのやりとりを基本とする。

対象生徒

高等部第1学年就労希望者+2年生就労希望者

個別面談や進路相談をとおして、生徒や保護者の意向、健康状態、通学の状況、家庭での様子等を把握するとともに、1年生については、第1期の校内実習をはじめ、学習の様子や生活の様子等を考慮し、会議で検討し決定します。

期間・回数

第Ⅱ期現場・校内実習と同時期に近隣の事業所で1週間ずつ、2カ所で実習を実施
3学期に1週間を目安に1カ所で実習を実施

実施場所(過去の実績)

カスミ協和店、ホンダカーズ茨城西筑西横塚店、協立製作所、三国園、株式会社根本 等

体験実習を実施する大まかな流れ

実施前

受入依頼

- 本校の進路指導担当が体験学習の受入れのお願いに伺います。
- 期日等が決まりましたら、受入依頼書を持参いたします。

打ち合わせ

- 本校の担当者（担任）が対象生徒について説明に伺います。
→事前にお電話でアポイントメントを取らせていただきます。
- 実習の詳細について打ち合わせ書に沿って内容等の確認をします。

事前学習

- 生徒各自が、学校での学習を踏まえ、体験実習に取り組む目標の設定をします。
- 事前に職場見学をさせていただく場合もあります。

実施期間中・実習後

実習開始

- 本校の担当者が引率して指導に当たります。
- 従業員の方には、生徒への作業指示や作業方法の説明などをお願いします。また、作業終了の報告なども従業員の方に生徒からさせていただきます。

事後指導

- 生徒自身の自己評価と引率者の評価を基に、達成できたことや今後の課題について振り返り、学校での学習活動に生かします。

学習活動

- 学校での学習活動の中で課題に取り組み、改善を図ります。
- 次回の体験実習の目標や課題を決め、次回の体験学習に望みます。

→ PDCAのサイクルで、生徒自身の課題改善と成長につなげていきます